

科目名		国際看護実習Ⅱ (外国の保健医療) International Nursing PracticeⅡ		担当教員 (研究室番号)		清水 真由美 (407)		教員への連絡方法 (メールアドレス)			
履修 年次	4年次 前期	科目 区分	総合科目	選択 区分	自由	単位数 (時間)	2 (60)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
										オープンクラス	否
科目 目的	対象国の保健医療や看護についての理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を高め、国際的視野および多文化共生の視点を持って活動するための基礎となる能力を養う。										
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現)									
	関連する DP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) G 看護学に対する研究的視点をもち、主体的に学ぶ姿勢を有している。(関心・意欲)									
到達 目標	1. 対象国の健康問題、保健医療、看護の実際について説明することができる。 2. 対象国の政治経済、文化、歴史、自然環境、生活習慣が人々の健康状態にどのような影響を与えるのかを説明できる。 3. 文化・社会背景の違いが、看護実践にどのような影響を与えるのかを説明できる。 4. 日本の保健医療・看護の現状や課題を、他国との比較によって、新たに捉え直すことができる。 5. 国際保健・看護協力に携わる看護職にふさわしい態度を身につけるとともに、自らの健康・安全を管理することができる。										
成績評価方法 (基準)		事前学習 (20%) 実習参加状況 (60%) 課題 (20%)									
再試験の有無と 基準等											
教科書											
参考書等		OECD:図表で見る世界の保健指標 OECDインディケーター (2021) OECD:図表で見る世界の社会問題4 OECD社会政策指標 (2017) ユニセフ:世界子供白書 (2023) WHO: State of the World' s Nursing Report - 2020 厚生統計協会: 図説国民衛生の動向 2022/2023 Nursing in the world editorial committee:Nursing in the world (2008) その他適宜紹介する									
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待		課題意識を持って積極的に自己学習に努める意欲のある学生の履修を歓迎します。									
備考		履修人数に制限があります。講義・見学時の説明は英語で行われるため、履修者には英語でのコミュニケーション力が求められます。現地実習は、運用上4年次後期に実施しますが、日程等の詳細については、後日提示します。									
学 習 内 容											
【講義・見学・発表】 ・英語での発表 (日本の文化、保健医療、看護など)											
【先行履修】 ・履修希望者は、英語選択科目、「医療と文化(2年次前期)」、「多文化社会の課題(3年次前期)」を履修しておくことが望ましい。 ・研修生向けの英語による公開講義(日本の保健医療・看護の概要等)を受講しておくことが望ましい。											

学 習 課 題
【事前学習】 ・自己学習、課題学習(英語) ・グループ学習：対象国の概要、保健医療システム、保健統計、看護教育など ・日本の保健医療・看護についての発表用パワーポイント（英語）の作成 ・文化交流会の準備 【実習中の課題】 ・各講義・見学で学んだ内容を所定の記録用紙に記載する。 ・毎日のカンファレンスにより一日を振り返り、グループ内で学びを共有し、深める。 ・現地での英語による発表（日本の保健医療・看護） 【実習後の課題】 ・実習後最終レポートを作成する。（テーマは後日提示） ・報告会での発表（実習での学び）

実務経験を活かした教育の取組	
・担当教員は、看護職として国際協力の実務経験がある。国際保健・看護の教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。	